

## 令和元年度湘南地区意見交換会概要

開催日時 令和元年9月21日(土) 午後1時30分～3時50分

開催場所 コミュニティセンター湘南 大会議室

出席者数 地区内住民：64名 行政職員：18名 県議会議員及び市議会議員：7名

### 1. 湘南地区まちぢから協議会 後藤会長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日はお休みのところ、多くの方々にご参加いただき、本当にありがとうございます。また、行政から、市長ほか、副市長、各部長、大変お忙しいところ、ありがとうございます。こんなにたくさん来ていただけたらと思っておらず驚いております。

茅ヶ崎市は、日が昇る東地区の方に日が照たり、日が沈む西の方は、どうも日が落ちるという意味合いで、あまり光が当たっていなかったような印象です。ここ数年、やっと光が当たってきて、浜見平団地の建て替え工事に伴い、計画も含めいろいろな部分で様変わりをしてきているのではないかなと思っております。

鉄砲通りは、計画的に電柱の地中化や、歩道の整備がなされ、また、柳島スポーツ公園が昨年オープンしました。せっかく我々の地元、地区内に開園した施設なので、できるだけ共催で協力をしていこうと事業を進めております。スポーツ公園の前には道の駅ができるので、今、歩道の整備も行われています。それができると、なかなか素晴らしい地区だなと感じるのですが、残念ながら、中間に位置する浜見平の終点からスポーツ公園の先の信号まで、これは柳島の地区になるのですが、ここの歩道が結構デコボコしてしまっています。ここも整備していただければ、茅ヶ崎の中でもモデル地区になるんじゃないかと思っています。市長にはこれを聞いて、あそこも早くやろうよという気持ちになっていただくと一番うれしいです。

今、我々の課題として、中島地区の交通問題や、異常気象による洪水の問題が大きな心配事としてあります。茅ヶ崎のハザードマップを見ると、この地区は、大体のエリアが水につかるというような状況でございます。こういった心配も含め、意見交換会をさせていただきたいと考えております。住んでいて良かったなと思える地域にしたいと思っています。

### 2. 茅ヶ崎市 佐藤市長あいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。湘南地区まちぢから協議会会長をはじめ、湘南地区の皆様には、日ごろから様々な面で行政にご示唆、ご指導をいただいております。心から感謝申し上げます。

本日は議事の中で、私と教育長の意見交換会がありますので、ここでの長い話は無用かと思いますが、後でどんな吊るし上げを食らうのかと思うと、ドキドキしております。どうぞお手柔らかにお願いをしたいと思います。

1つだけ、今、オリンピックを応援する実行委員会が茅ヶ崎にもございます。茅ヶ崎が北マケドニア共和国のホームタウンになり、こういったバッジが1つ500円から寄付

を受け付けております。これを付けて、みんなでオリンピックを盛り上げようというのですが、何でこの話をするかという、この地区には陸上競技場がございます。あの陸上競技場を使って、北マケドニア共和国の選手が様々なトレーニングをやるのではないかと考えております。また、オリンピックというのは、ただスポーツの競技をするだけではなくて、それぞれの地域地域で様々な文化交流をするというプログラムがあります。そういったときに、この地区の柳島小学校なのか、中島中学校なのか、もちろんスケジュール調整は必要ですけれども、できたら地元の小学生、中学生と交流ができればいいな、こんなふうにも考えております。

先ほど、湘南地区まちぢから協議会会長から様々なハード面のお話がありました。もちろんそういったハード面もしっかりやらなければなりません、一番大事なのは、そこで何をするかということでございます。しっかりとソフト面を充実させることでこの地域がますます盛り上がっていくと私も信じておりますので、どうぞ後ほどの意見交換会では屈託のないご意見を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と代えさせていただきます。

### **3. 行政より「茅ヶ崎市の財政」について**

それでは、皆様、改めまして、こんにちは、市からの情報提供といたしまして、貴重なお時間をいただき、「令和元年度予算の概要とこれまでの財政状況の推移」と「これからの財政状況」ということで、お手元に配布させていただいておりますこちらの資料をご覧ください。

まず、1枚おめくりいただき2ページ目の上段、令和元年度の当初予算の構成をご覧ください。

予算総額のうち、一般会計につきましては、新たに市長が就任したことに伴い、人件費等の義務的経費を中心といたします骨格予算として編成しました。新規事業及び政策的な判断を必要とする政策的経費につきましては、第2回定例会、6月議会において、いわゆる肉付け予算として計上し、議決をいただいているところでございます。

肉付け予算を加味いたしました今年度の全会計の予算総額につきましては、1,378億9,837万円の予算を確保し、事業展開をさせていただいているところでございます。

同じく、下段の「令和元年度一般会計目的別歳出前年度比較」をご覧ください。増減の額が大きい主な要因について、まずご説明をさせていただきます。

2番目の総務費の大幅な減といたしましては、市民文化会館再整備事業が終了したことによるものでございます。続きまして、3番の民生費の大幅な増の要因といたしましては、保健所の整備等に係る経費の増加によるものでございます。続きまして、7番の商工費及び8番土木費、10番教育費の大幅な減の要因といたしましては、道の駅整備事業のオープン時期の延伸等により見直しをしたことによるもの、また、茅ヶ崎公園体験学習センター、いわゆるうみかぜテラスの整備事業及び、今宿小学校の給食調理場の建設事業が終了したことによるものでございます。

続きまして、次のページをご覧くださいいただければと思います。「茅ヶ崎市のこれまでの財政状況」についてですが、まず下段の「経常収支比率の推移」をご覧くださいいただければと思いま

す。

21年度から30年度までの経常収支比率の推移を示したものでございます。

なお、これからご説明する中で、30年度の決算の部分が載ってございますが、こちらについては、現在、市議会にて審議中でございますので、ご了承いただければと思います。

財政指標の一つでございます経常収支比率につきましては、財政構造の弾力性を判断するための指標で、経常経費に経常一般財源の収入がどの程度消費されているかを示す内容でございます。

財務部長は何言っているんだ、わからないというところかなと思うんですけども、簡単に申し上げますと、毎年度、経常的にかかる費用、いわゆる固定費ということで思っていただければと思います。こちらの基準値といたしましては、都市部では75%程度が妥当で、80%を超えると、地方公共団体は弾力性が失われつつあるというふうに言われてございます。いわゆる固定費が増え、政策的なものに回るお金が生まれてこないということでございます。

この解決策ですが、いわゆる経常的な経費、扶助費等のある程度削減をするというところが一つございます。

続きまして、もう一ページおめくりいただきまして、健全化判断比率の推移というところでございます。健全化判断比率というのは、北海道夕張市が財政破綻をしたという経緯から、健全化法という法律が制定され、各自治体が横並びで比較できるようにと始まったものでございます。

健全化判断比率の四角の折れ線グラフは、将来負担比率といたしまして、将来負担すべき実質的負債の標準額、標準財政規模に対する比率でございます。これからこの負債が将来の財政負担に圧迫する可能性が高いかどうかを示すストック指標になってございます。いわゆる早期健全化基準ということで、これが350%を超えると、国の指導が入ると。夕張市はこういう形になっておりますが、そういう基準になっていくというところでございます。30年度、大幅に増えたというところにつきましては、市債残高が約68億円増加したというところでございます。

続きまして、下の扶助費の推移をご覧ください。扶助費という費目は、いわゆる福祉にかかわる費用で、例えば、生活保護や、後期高齢者にかかわる事業、昨今力を入れていまず保育園の待機児童対策など様々な経費が入ってございます。

こちらはこの10年間で約100億円増加しております。内訳的には、待機児童対策が約50億円程度、生活保護で約18億円程度、高齢者にかかわる費用としまして約10億円程度の増加でございます。

扶助費の増加につきましては、本市だけではなく、全国的な課題です。

次の公債費の推移と、下段の一般会計の市債残高の推移を、一緒にご覧ください。公債費の推移でございますが、こちらは、当該年度以前に、借入をした市債の元利償還金となります。

そして、下段のグラフにつきましては、市債残高の推移、折れ線グラフを見ていただければと思います。数字が小さくて申しわけございません。いわゆる残高の推移となっております。こちらはちょっと見にくいのですが、平成15年度をピークに減少してきたも

のが、ここ数年、増加をしているというところでございます。

その要因としまして、濃い目の棒グラフを見ていただければと思うのですが、こちらは、いわゆる事業債ということで、これは老朽化対策等、ここ数年、非常にウエートが大きくなっているというところで、連動してこちらの事業債が伸びているというところでございます。

薄めの棒グラフにつきましては、臨時財政対策債というものでございまして、これが継続的にふえているというところでございますが、これは国から地方交付税というお金が本来交付されるというところでございますが、国のほうも財政難ということで、現金ではなく、各自治体が国に代わって借金をというところの市債でございまして、こちら、本市だけの課題ではなく、全国的な課題というところでございまして、地方交付税の算定の中に組み込まれて、交付税で返ってくるという仕組みにはなっておりますが、国に対しては、借金ではなく、現金で配分をと毎年要望しているところでございます。

続きまして、1ページおめくりいただき、これからの財政状況というところでございます。こちらのグラフにつきましては、企画部より次期総合計画の中でご説明というところだと思っておりますが、そちらの内容と同じものでございます。

先ほどお話をした扶助費というところでございますが、次期総合計画を10年間というスパンで作るのですが、平成29年2月に公表した人口推計をもとに試算をしたというところでございます。

人口推計につきましては、特徴として、令和2年度から人口の減少が始まり、また、令和22年には市民の3人に1人は高齢者になっていくというところでございます。そういう状況を加味いたしますと、棒グラフのとおり、さらに増加をしていくというところでございます。

続きまして、次のページになります。公債費の将来推計というところでございます。今年度、約40億円程度の市債の償還というところでございますが、令和4年度には60億円程度にはね上がるということで、約20億円程度増加するというところでございます。こちら、先ほどもご説明いたしましたが、市債残高が増加していますので、これについては連動して今後増加するというところでございます。

以上のことから、下の義務的経費、人件費、扶助費、公債費というところでございますが、今年度は440億円程度のものが令和7年度には500億円程度ということで、約60億円程度増加するというところでございます。

このように、北海道の夕張市のように、すぐに財政破綻するということではございませんが、ご説明をさせていただいており、いわゆる義務的経費が増加するというところで、各市民集会等でご要望もいただいておりますが、やはり政策的経費が年々少なくなっているというところの意味で、厳しい財政状況というところでございます。

ちなみに、過去の政策的な事業でもある一般財源といたしましては、29年度で決算では約13億円、30年度決算では約10億円、令和元年度は、予算ではございますが、約5億円ということで、年々少なくなっているというところでございます。

このような状況下でありますけれども、サービスの低下を招かないように、次期総合計画、実施計画ということで来年度から策定をしておりますが、全庁的な優先順位をしつ

かり決めて、それについて取り組んでいきたいというところで財務部としては考えてございます。

長くなりましたが、現在の財政状況を中心に説明をさせていただきました。ありがとうございました。

#### **4. 第一部：テーマに基づく意見交換**

##### **(1) 市長・教育長との意見交換**

○市長より説明

それでは、中学校給食と道の駅について、私の考え方を述べさせていただきたいと思えます。

財務部長の説明にて、茅ヶ崎市の財政状況の厳しさというのをおわかりいただけたかなと思います。先日、20年前、茅ヶ崎市の市長をやられていた添田高明先生の後援会の方にお会いまして、「添田先生が市長のときには、茅ヶ崎市の予算が1,000円としたら、市長が自由に使えるのは100円ぐらいなんだ。大変だね」と言われたものですから、「いや、今、市長が使えるのは20円ぐらいです」と言いましたら、大変びっくりしておりましたけれども、それぐらい、今、財政状況が厳しい。そして、今後も厳しくなっていくというのが現状でございます。

先ほど、本年度の予算のところでもご説明がございました。本年度の予算、一般会計で722億5,597万円。「当初予算及び肉付け予算」と書いてあります。当初予算というのは何かというと、先ほども財務部長がご説明した必要経費です。必ずかかる扶助費とか、人件費とか、福祉にかかる様々な経費がいわゆる当初予算、骨格予算と言われるものです。肉付け予算というのが、私が政策としてこれをやっていくんだ、例えば、今まで小学校6年生まで小児医療の助成をしておりましたけれども、今度は中学校3年生まで、この10月から拡大をする。これは私の政策として掲げたものでございまして、そういった肉付け予算というか、私の政策予算が、この中で大体9億円でございまして、だから、多いか少ないかというのは、722億円あるうち私が政策として掲げたのは9億円程度でございまして、それだけでもかなり財政が厳しいということがわかっていただけたと思います。

そして、本題に入りますが、これから中学校給食を、これも私の政策として掲げておりますので、しっかりと進めていきたいと思っております。中学校給食の1校1校に給食場をつくっていくと、これもまた莫大なお金がかかってきます。中学校13校に1個1個つくると何年かかるのかということも考えなければいけません。センター方式で、1カ所で一遍につくれる、そういったのがいいのか、そういった場所が茅ヶ崎にあるのか。あるいは、例えば、円蔵中学校、円蔵小学校とか、梅田小学校、梅田中学校とか、隣同士にある中学校は、小学校の給食場を使えないのか。昔は、小学校も6クラス、7クラスございましたけれども、今は4クラスとか5クラスとか、数が減っていますから、余剰のスペースがあるんじゃないか、こんなことも今、模索をしています。この秋には、方向性をしっかりと決めて、また市民の皆様にお話を聞いて、中学校給食の方向性を出していきたいと思っております。

中学生がこれから成長期になっていくときに、しっかりとした栄養バランスのとれた給

食を提供するというのは、私どもの大事な使命だと思っておりますので、中学校給食は進めていきたい。

ただ、地域によって、成功しているところと失敗しているところがございます、鎌倉は成功しているようです。鎌倉はどうやったかという、給食を始める前に保護者の方にどういう形でいいのか、アンケートで聞いて、分析をしたということです。その結果、選択性を取り、給食にするのか、お弁当を自分で持っていくのか、8割方は給食に移行しており、残りは2割と少ないです。教育長にも一度鎌倉に行っていただいておりますので引き続き、勉強していきたいと思っております。中学校給食はやっていきます。

道の駅につきましては、先日、やっと土地の買収が全て完了いたしました。目標は、令和4年の3月にオープンということでございます。ただ、選挙のときに言ったとおり、一度ゼロベースで見直しをさせていただく。当時は公設民営で考えておったわけですがけれども、これもお金がない話で大変恐縮なんですけれども、何でもかんでも行政が建てればいいのかという、私はちょっとそこに一度とどまる思いがございます。民の力を借りてやってもいいんじゃないかという思いでございます。

そして、何といっても、あの道の駅の1つ弱いところは、駐車場が少ないことです。140数台しかあの道の駅は停まれません。ですから、長い間、駐車するような道の駅をつくってしまうと、回転が悪くなります。しかも、道の駅というのは基本、駐車場は無料ですから、あそこに車を停めてサーフィンに行くような方もいるかもしれない。そして、道の駅は24時間オープンですから、24時間駐車場は開けておかなければいけない。そういうときに、あの地域の治安はどうなんだいというのも、これは大変大きな問題でございますので、そういった課題を1つ1つつぶしていかなければいけないと思っております。

ただ、道の駅から様々な茅ヶ崎市の発信をし、道の駅に寄ると、茅ヶ崎の様々な情報があるよ、そこから、他の地域、例えば、茅ヶ崎の漁港の裏で、今度、浜プランというのをやりますから、そっちもちょっと寄ってみようかとか、ラチエン通りっておもしろそうだね、柳島にこんなお店があるねとか、そういうのをどんどん発信して行って、茅ヶ崎の中を回遊してもらって最初のスタートポイントに道の駅がなればいいかなと、こんなふうにも思っております。

圏央道と新湘南バイパスがつながって、北関東の車が大変多く来ております。ただ、残念なことに、9月、10月になると、その車はみんな西へ、箱根方面へ行ってしまいます。東の方へは全然向いてくれません。これを何とか東の方、茅ヶ崎に来ていただいて、茅ヶ崎の中を回遊してもらって。それで、江ノ島へ行ってもらうのもいいと思うんですね。別に茅ヶ崎だけで完結する必要はないわけですから。そういった他の市町とも協力しながら、どうやって北関東の車を東に向けるのか、こういったこともこれから考えていきたいと思っております。

#### ○教育長より説明

それでは、少しだけ自己紹介させていただきますと、この4月1日より教育長の職を拝命いたしました。私が茅ヶ崎の教育にかかわるようになったのは、昭和55年からでございます。昭和55年の4月に柳島小学校に配属されまして、そこで9年間お世話になり

ました。その後、茅ヶ崎市内の小学校を柳島小学校を含めて3校、それから教育委員会でまた過ごさせていただき、途中で不登校のお子さんたちを支援します、あすなる教室の担当としても務めさせてもらいまして、市内の最後の小学校を平成29年の3月で退職いたしました。その後2年間、まだ幼稚園、保育園ぐらいの世代のお子さんたちの発達に不安のある子どもたちの支援をする、つつじ学園というところで勤めさせていただいて、この4月よりまた教育委員会のほうにお世話になることになりました。

また、この地域で最初に勤めさせていただいた柳島小学校で9年間、まず、地域の皆様、またPTAの皆様大変お世話になりました。よく覚えておるのは、当時、学校で新しい防災計画をつくりましたときに、地域の皆さんにも大いにご理解・ご協力をいただいたことです。登下校中に大きな地震が起きたら、地域の皆さんに随分とお世話になるだろうと思ひ、全地区で地域懇談会を夜開かせていただいた覚えがあります。もし登下校中に地震が起きたら、うちの畑に避難させてとのお申し出もいただきました。しかし、当初よりそれを計画に入れるわけにはいきませんので、丁重にお断りいたしましたけれども、子どもたちは自分のところで守るよという思いをすごく強く感じ、この地域の素晴らしさだなと感じたことを改めて本日も思い出してございます。

テーマでございますが、1つ目が、中学生の部活動時の自転車移動について。これは、皆さんご存じかとは思いますが、平成29年に中学生が部活のために自転車で移動中に車にはねられてしまうという大変残念な、そして大きな怪我に至る事故がございました。部活動のために隊列を組んで大人数で自転車移動するということについては、小さな事故、怪我がつきものですので、前々から議論がされてきておりました。そのため、湘南の地域の中でも、藤沢市、鎌倉市では自転車移動を認めておりません。

そんな中で、茅ヶ崎は部活時の自転車移動を続けてきたのですが、やはり交通事故等も心配なため、29年の事故を契機に、まず、30年度は自粛するという試行を行いました。子どもたちの安全第一を考えたときに、自転車は使わずに、基本的に公共の交通機関を使って移動しよう。また、距離によっては徒歩で移動しようというようなことで進めていたところでした。

ただ、駅で集合するという場合に限り、集合場所である駅までの自転車は基本的に認めていこう。その際には学校にも届け出をしていただく、また、安全のためにヘルメットも着用してもらうという万全の体制で行うこととしました。今年4月からスタートに向けて昨年度末に決定し、今、それを進めているところでございます。

その中で、いろんなご意見も既にいただいております。自転車の経済性や手軽さ、これまでの経緯の中で、ぜひ子どもたちにそのまま使わせてほしいというご意見。逆に、このような形になったことで、子どもたちが本当に安全に移動できることとなり、とても安心だというご意見もいただいております。中には、「自転車のまち茅ヶ崎」なのだから、もっと自由に自転車を乗せさせてもいいんじゃないかというお話もございます。

ただ、「自転車のまち茅ヶ崎」だからこそ、子どもも大人も誰もが安全・安心で自転車に乗れるという、これが茅ヶ崎の自転車のまちとしての誇りではないかと思っております。

私も、30年近く、自転車のみで通勤は行っております。本日も市役所へ自転車で参りましたが、毎朝自転車に乗っていると、かなりの自転車が一緒に走っており、結構怖い

思いをいたします。皆さんも感じられることが多いかなと思います。特に、交差点の辺りでは車も横を通る。急いでいる方は、自転車を飛ばして通り越していくというようなこともたくさんあります中で、身の危険を感じることもありますし、私が人に身の危険を感じさせるときもあるかなと思いました。

20人、30人、多いときには40人ぐらいの人数で自転車をみんなでこいで隊列を組んでいくというのも、実は結構、子どもたちも不安が大きいだろうと思います。前後の自転車でぶつかって倒れる、怪我をするというようなことはたびたびあったと聞いております。うっかり信号が赤でも進入してしまう場合もあったようで、私もそれを見たことがあります。

こういったところを考えますと、やはりそこは安全第一で進め、そして、1年、2年とやる中でご意見をちょうだいしたい。

そんなことで、まずは子どもたちの活動の様子をよく見ていただいてから、多くのご意見を伺ってまいりたいなと思っております。

もう一点でございます。不登校児童・生徒に対する理解についてですが、不登校のお子さんたちは茅ヶ崎にもございます。昨年度で申し上げれば小学校で51名、中学校では187名という人数です。これは、全く学校に来れないお子さん、学校に来たり来なかったりするお子さんも含めての人数でございます。いろんな状況を抱えた中で、大事なものは、このお子さんたちに限らず、居場所とつながりであると考えております。

私も、一時期、2年間ほど、不登校のお子さんたちを支援するあすなる教室の担当教諭をしておりましたが、そのときに子どもたちは、既に居場所を失い、そして、つながりも失っているお子さんたちでした。そのお子さんたちが私に投げかけた質問の中に、「学校ってなぜ行かなきゃいけないの？」という質問がございました。本当に根源的な質問だと思います。行くのが当たり前という発想から、私はすごくここをしっかりと考えなければいけないなと思いました。

「義務教育のときだから行くんだよ」というのは、大人には通用しますが、子どもには権利として学校教育に来るものでございますので、なかなか通用するものではございません。子どもに私がお話ししたのは、学校というのは、学ぶときも、運動するときも、何か活動するときでも、そして、いろんな施設という点でも、非常に便利な場所だよ。君たちが育っていくため、将来に向かって自立していくために、実はとても便利な場所だよ。そこを選択できるところが学校なんだよと。学校に行くということも実はすごく大事な選択肢です。でも、まず、君たちが安全・安心で過ごせるところを大事にしようと、子どもたちとつき合っていました。

不登校のお子さんたちをどう支援していくか、担任は、丁寧に子どもに寄り添って、心に負担をかけないようにしながら、学校活動、教育への励ましを行っているところです。また、スクールカウンセラーや、心の教育相談員など、担任や教師ではない人たちの相談の窓口も作り、進めているところです。いろいろな人材が学校の中でチームとなって進めているのが、学校の中での不登校対策です。

また、教育委員会といたしましても、青少年教育相談室などの様々な相談窓口を作って、子どもたち、また保護者にお知らせしているところでございます。学校でも、お休みした



場合、1日目の電話、2日目の手紙、3日目の家庭訪問、このように、子どもたちの日々の状況に合わせた丁寧な関わりをしながら、子どもたちの学校への思いを育て、自信をつけさせていきたいと思っています。

友達関係などで自信を失っていたり、学習に対する自信を失ってしまったりしている、そういったお子さんたちの居場所を作る中で、大変ありがたいと思っているのは、地域が声を上げて協力をしてくださるところが増えてきたことです。この地域でもそういう方向を持って関わってくださっているということをお大変ありがたく感謝している思いでございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○道の駅の近くで野菜を作っており、道の駅のことで気になることがあったのでお聞きします。

タウンニュースの8月23日号に「道の駅予定地で土壌汚染」と記事に書いてあります。茅ヶ崎市は、8月14日、道の駅の造成工事で土壌汚染が確認されたと発表したと、こういう記事です。道の駅の周りの土地も土壌汚染されていないか、あるいは風評被害が起きないか、大変不安になりました。

そこで土壌汚染についてもう少し説明してほしいと思っています。野菜をつくっても大丈夫か、周辺の土地も土壌調査をするのか、また、原因不明と書いてあったんですけども、今後も調査するのかどうかお聞きしたいです。

●市長

詳しいことは担当からお答えいたしますが、フッ素、基本的には影響はないと測定をされております。しかしながら、そういった不安もございませうから、実際に工事に入るときには、いわゆる汚染されていると言われていた土は、30センチから50センチぐらい掘り下げて、全部除去する方向になっております。詳しい話は担当からお願いいたします。

●道の駅整備推進担当課長

今、市長からもお話がございましたように、道の駅整備予定地でフッ素が出たということは事実でございます。ただ、今回出た基準値を超えたというのは1つでございまして、今回、2つの調査をしております。1つは、土壌の溶出量の有害物質を含んでいるかどうかの基準を測りました。その結果、土地含有量調査に関しましては、全くもって安全でございます。というのも、直接採取して、土壌を含んだ場合、影響があるかといった検査でございますが、そこに関しましては全く問題ございませんという結果でございます。ということは、野菜に関しましても問題ないということで考えております。

それから、今回出てしまったのは、溶質が、例えば土壌に含まれる有害物質が地下水に溶け出して、その地下水を飲用とした場合にはリスクがあるというところでございます。ただ、今回、地下水の南西方向への流入といたしましうか、流れるものは確認してございません。水道法に定めます飲用井戸がないことも確認してございますので、こういった地下水の飲用による摂取経路はないものと考え、今回は問題ないかと思っております。

また、原因につきましては、地歴調査として、これまでに、薬物ですとか、大きな工場

等があったかを確認したのですけれども、そういった地歴等はありませんでした。そういったことから、今回は原因不明ということで考えてございます。

ただ、フッ素自体はもともと自然由来ということで、自然界に多数存在しているものがございます。海に入ると、フッ素というものが結構入っているというのも確認してございます。

先ほど心配されている風評被害というのも、私たちが確かに懸念しておりましたが、今回に限りましては、先ほど市長がお話しさせていただきましたとおり、表土の部分は適切に処理をさせていただくと。最終的に道の駅自体は、アスファルト等を覆わせていただきますので、そういったところの飛散の恐れはないと考えてございます。

それから、もう一つ、他の地点で検査をするかですが、今回、道の駅のところでございますので、他のところの検査は今のところ予定しておりません。

○道の駅問題について、私はずっと反対してきました。場所的な問題で。できた以上は、これをどうするかということで、市長からも幾つかの問題点が出されました。私も同感です。ぜひ財政上の問題、交通問題も含めて、十二分に配慮していただくように、この機会にお願いしておきます。

それから、報告はございませんでしたが、財政上の問題と絡んで、市立病院の運営問題というのが大変な状況だと聞いています。市立病院は、もともとは救急指定がなくて、昔は大変な状況があったりしていましたが、現在は、徳洲会が来たり、北陵病院、市立病院もあって、「たらい回し」などという言葉のない、大変結構な状況になってきました。しかし医療問題について財政上の問題が議論されているし、市長自身も選挙公約で市立病院の運営について関心があると聞いています。これから医療問題と財政について、市立病院はどういう方向になっていくのか、お尋ねします。

それから、もう一つ、中島地区は残念ながら陸の孤島。根本市長当時からやってきて、私も何回かずっと叫んできましたが、残念ながら今日の状況になりました。まちぢからでも一生懸命頑張ってきましたが、今、新しくまちぢからで運動を起こしています。この運動に市として補助金を出していただけることがあるかどうか、お尋ねします。

以上です。

## ●市長

病院についてはここ2年間、一般財源から10億円ずつ支出されており、市立病院自身のお金も、これが続くと枯渇するという状況でございます。地域の基幹病院として残していきたいとは思っておりますが、それには、病院自体がもう一度襟元を正して、今の状況をしっかりと把握していかなければいかんということでございます。

そこで、ここで少し病院内の組織を変え、病院組織の中にも財務部が入ってお金の流れを確認し、また、実際これだけ厳しいんだということを訴えていかなければいけないと思っています。今後、4年間をかけて、病院自体に大きな手術をしなければいけないと思っています。それには、輸血も必要でしょうし、麻酔も打たなければいけないでしょうし、そういった意味で、病院にもしっかりと予算をつけますが、これはあくまでもこの病院を

残すために大きな手術を乗り越えるためにやっていくつもりでございますので、この辺をご理解いただきたいと思います。

もう一つのほうは担当部長からお願いします。

#### ●都市部長

地域の公共交通の問題ということのお尋ねかと思います。この後、テーマの中でも取り上げられていますので、そこで状況についてご説明しますが、今お話しいただきました市からの補助について、地域コミュニティへの支援ということで、金額はあまり多くありませんが、支出させていただいております。今後、事業化に向けての支援について取り組んでいるところです。

それから、補助という形で見てまいりますと、神奈川県が共生社会仕組みづくりということで、地域の皆様が外出をしていただけるためのモデル事業を立ち上げました。本市以外にも平塚、小田原などがあるわけですが、その中で補助として地域の取り組みに支援をしていくということが決まっておりますので、今年度の後半から来年度以降にかけて、金額はまだはっきりしていませんけれども、地域の方々とやっていきます事業に対して補助をしていくということを聞いております。また後ほどそのあたりに触れながらご説明をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○自転車の盗難が非常に多いです。茅ヶ崎として誇りがある自転車の盗難をどのように考え、盗難した自転車はどこにあるのか。この辺をお聞きしたいと思います。

#### ●教育長

今お話しいただきました。学校でも盗難に遭わないような注意深い自転車の扱いについて、しっかり指導してまいりたいと思っております。

#### ●市民安全部長

防犯の視点ということでのお話になるかと思っておりますけれども、まずは、しっかりと施錠をとの啓発をさせていただいております。市内に何箇所か自転車駐輪場がございますけれども、まだ鍵をかけていない自転車が見受けられます。ぜひとも鍵をしっかりとかけてくださいというお願いを周知させていただいております。

盗難した自転車がどこにあるのかというのは、わからないから盗難されているんだと思うんですけども、言い方を変えると、放置されている自転車につきましては、西久保のある一定の場所に一時的に置いてございます。もし自転車がなくなったということであれば、市の市民安全部の安全対策課へお問い合わせいただければ、調べることはできます。よろしいでしょうか。

## 2) 洪水に備えた避難に関する取り組みについて

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○日ごろ自治会活動につきましては、皆様にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。本日は、特に洪水における避難関係についてお伺いしたいと思います。

台風15号、これは千葉県に多大な被害をもたらしましたが、台風の恐ろしさを改めて

知る台風だったと思います。少しでも西に方向がずれたら大変なことになっていただろうと認識しています。

こういう中で、茅ヶ崎市でお作りになっている洪水のハザードマップ、これによりますと、中島地区は全てが浸水地区になります。特に、1メートルから2メートル未満というところが約3分の2、2メートルから5メートル未満、これが3分の1あります。私どもの避難所であります中島中学校も1メートルから2メートル未満に含まれるという、非常に避難しづらい場所に避難所がございます。

私は大きく2点お伺いしたいと思っておりますが、1点目は、早期避難所というのがございます。これは、自主避難のために茅ヶ崎市で設けていただいているんですが、ごく最近、ハマミーナという浜見平にある施設が早期避難所に設けられました。これにつきましては大変ありがとうございます。

ただ、中島がもし早期避難をかけるとなると、萩園にございますケアセンター、それから、もう一つはハマミーナということになってしまうんです。あとはそれぞれ行政単位ですので、南湖公民館とか鶴嶺公民館という非常に遠いところになってしまう。そういう中では、早期避難所というものはもう少し設けていただけないかなというお願いが1つございます。

それから、2点目は、避難所は、私どものエリアは中島中学校になります。中島中学校につきまして、まず、どの段階で避難所が開設されてくるのか。もし基準等があったら教えていただきたいこと。

また、中島中学校の避難はどのくらいの規模で、どのくらいの人員を収容できるのか。中島は基本的には人口が約4,000人おります。ただ、これは大きなマンションも含まれておりますので、例えば、1階、2階というような、比較的水に弱い部分、この方々はもう少し人数は減りますが、そこに最終的には避難しなければいけないというふうに考えています。それから、もう一点、今回新しく入れていただきました西浜高校。これは、一応浸水しない避難所ですよということではございますが、ここまで行くのも大変でございます。

先ほどちょっとお話ししました緊急避難所の関係でございますけれども、今2カ所、私どもが行くのは2カ所ということでお話ししたんですが、実はもう一つ避難所の関係、というより退避所がございます。これは、ご存じのとおり、津波のための緊急待避所というのが実は中島にございます。これは中島にあるマンション、それから、特別養護老人ホーム。これらが協定を結んでいただいているんだと思っておりますけれども、緊急待避所になっています。これらを洪水におけます緊急の避難所としても活用できるようお願いできるのかどうか。確かに、それぞれ生活している場でございますので、簡単にはいかないかもわかりませんが、ぜひこれについて取り組みをいただければ助かります。

よろしくお願いたします。

#### ●市民安全部長

まさに数年前、洪水土砂災害ハザードマップを市から全戸配布させていただいてございます。おっしゃるとおり、当該地区につきましては、ほぼ水没する、数メートルの水没をする、場合によっては1週間程度孤立する可能性もあるというところでございます。

ただ、これは、相模川が洪水氾濫した場合ということが大前提でございまして、48時間で567ミリ降る、これは相当な量でございます。確率でいくと、毎年で発生する確率が0.1%というところでございます。しかしながら、こういった重大な事態を引き起こす可能性がある昨今の気候変動等を考えますと、市としてもしっかりと対応していかなければいけないと思っているところでございます。

それで、お問い合わせのありました早期避難場所の関係です。早期避難場所は、私たちは指定避難場所とは別に考えてございます。基本的には先般の15号の台風の時にもございましたが、不安を感じていらっしゃる方々の不安を解消するというような視点の中で、早い段階で開くというところが早期避難場所でございます。この間は2時に開設させていただきました。おそらく近隣市では、2時に避難場所を開設しているところはどこもございません。そういったところで、基本的にはそういった不安を感じていらっしゃる方の解消のための避難場所でございます。それで、ステップに応じ、その後の状況等を見ながら、場合によっては指定避難場所を開設するということになります。それが中島中学校というわけでございます。

しかしながら、これも気象状況の確認をしていく中で、段階的に、相模川が氾濫するというようなことがもし起きるといふことであれば、さっきおっしゃっていましたがように中島でいきますと西浜高校。あそこは水浸ししませんので、そちらのほうに動いていただくというような、段階に応じての避難情報を発信するようになるかと思えます。

それと、住んでいらっしゃる方が全員入れるのかというようなお問い合わせでございます。これは、正直なことを言ひまして、もし全員の方が避難したら入り切れません。想定としては、8割程度の方が避難するだろうというところでございます。ここ数年起こっている各災害事例を見ると、6割程度の方が水害の場合は親戚のお宅へ逃げていかれるパターンが多いようです。なかなか全員を受け入れるということではできない状況ではありますが、その避難状況等を確認しながら、場合によってはもっと別のところ、東の方へ移っていただくとか、そういうようなことを災害時には私どものほうで情報発信をしていきたいと思っております。

○1点だけ教えていただきたいんですが、警戒レベル3、4というのがあります。3の場合は、要介護者とか要援護者の方々の避難というのを自治会として考えていかなければいけないわけですが、これの基準が難しい。おそらくこの段階では、避難所である中島中学は開設しないだろうと思えます。そうすると、近くで言うとハマミーナとか、そちらのほうに誘導していかなければいけないのだと思えますが、そこまで行くとなると結構大変だなという認識ですので、もっと地域内に作っていただけませんかというお話です。

それから、今回、平塚市の地域メールが入ってきました。平塚は警戒レベル4を出しました。おそらく金目川が危ないんだと思うんですが、4が出たときは、台風は荒れていました。あの状態での避難というのは怖いなと思ったんです。おそらく先ほどのお話のとおり、中島中学校は小出川に向かっていきますし、相模川の氾濫というよりも、小出川の氾濫も考えなければいけない。そうすると、水がたまったら誰も避難できないだろう。そういう中では、早期避難所についてもうちちょっとご検討いただければ助かるなと思えます。

これは要望です。どうもありがとうございました。

○今の議題の中で、宮の下橋というのが何回か出たと思います。貴重な時間ですので、台風の時、どんなだったかというのを、作ってみました。私が撮った写真ですので、ご覧いただきまして、参考にしてください。

近年、すごい帯状の豪雨ということで、本当に大変な災害が増えております。私も後期高齢者を過ぎました。柳島のみならず地域全体、中島、とても心配しています。

まず、宮の下橋、小学校、中学校ができる前の頃は、水没してしまうような問題があった場所です。柳島の新しいお宮さんの前の通りから、夢わくわく公園までは大川になってしまうんです。これを知っている方がいらしたら、私はうれしいんですけども、本当に凄まじいことなんですね。

問題なのは、昔、畑だったところが新開地でお家が建っております。新しい土地の方には申しわけありませんけれども、水没しかねない土地の上に家が建ち、その関係で川が縮小されているんですね。

これは大切なことですよ。もう少し時間をください。結局何かというと、今の状態で、土のうを積んでも防げないほど氾濫して水が入ってしまうかもしれない。生命、財産、人命を守ることが一番です。先日も本当に近くまで来ていました。水没の可能性がある状態で、避難所から帰ってきたときに家がちゃんと残っているか不安です。そこを考えていただきたい。

#### ●企画部長

小出川全般のお話にはなりますが、小出川の管理者であります神奈川県により、川底を掘り下げて流れを確保する掘削工事や護岸整備、遊水池整備等の事業を順次進めていただいております。市域を流れる小出川の治水安全度の向上は、本市にとっても大きな課題でございますので、早期に整備事業が進捗するよう、引き続き神奈川県に要望するとともに、安全・安心の向上のため、神奈川県と連携をしてまいりたいと考えております。

### 3) 近年の交通問題と湘南地区での取組みについて

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○先日インターネットで、非常にびっくりした記事を見ました。茅ヶ崎市が今あることをきっかけに非常に注目されています。それは皆さん何かご存じですか。知っている方もおられると思いますが、茅ヶ崎市は病気でなく老衰で亡くなる人の割合が日本一高いんです。全国平均の基準値を100とした場合、茅ヶ崎市の老衰の死亡率、男性が210、つまり2.1倍、女性が176、つまり1.7倍ということです。健康長寿で老衰死が増えれば、当然、医療費、介護費を抑えることができると言われております。1人当たりの医療費で見ますと、茅ヶ崎市は全国平均より約5万円低いということで、1人平均で約35万円だそうです。老衰死が多いほど医療費を低く抑える傾向になるということです。じゃ、なぜ茅ヶ崎市は老衰死が多いのかということなんですけども、これはまちの風土とか、制度とか、文化、その辺にヒントがあるのじゃないかなというふうに思います。

そういった中で、今度は反対に悪い話かもしれないですけども、高齢者ドライバーの

交通事故、これは昨年、一里塚交差点の死亡事故が全国的にも放映され、茅ヶ崎としては非常に残念な結果だったかなと思います。また、3年前には鳥井戸橋の交差点で90歳の高齢者が部活の女子中学生をはねるという事故も発生しております。これは、中学校が部活時の自転車移動禁止とする発端となり、高齢者事故による大きな話題になっております。このような不名誉な高齢者の交通事故に対し、茅ヶ崎市として今どんな取り組みをされているのかお聞きしたい。

それと、2番目に、高齢者ドライバーの免許証返納を警察が推進しています。茅ヶ崎市としても積極的に推進する姿勢を打ち出したらどうか。例えば、公的な身分証明書として、運転経歴証明書を交付する代金として、現在は手続上、実費で1,100円を払っていると思います。これを茅ヶ崎市が補助することによって、茅ヶ崎市の高齢者の交通事故対策にもPRできるんじゃないかと思っております。これについてどう考えているか、お聞きしたいと思います。

#### ●市民安全部長

まず、30年の茅ヶ崎市内における人身事故の件数は548件でございました。そのうち65歳以上の高齢者が運転していて加害者となった事故は119件、21%を占めている状況でございます。2年連続で高齢運転者による死亡事故が発生している状況もでございます。

本市といたしましても、高齢運転者による交通事故を減少させるということは非常に重要な課題であると思っております。茅ヶ崎警察署と連携し、65歳以上の運転者を対象に、例えば、シルバーセーフティドライビングスクールを京急自動車学校で開催してございます。実車を通じて、自身の運転を見直す機会としていただいているほか、高齢者を対象とした交通安全教室も開催してございます。

また、運転免許証の自主返納の関係でございますが、これは市の広報紙や市のホームページなどにも掲載し、また、まちぢから協議会の広報紙にも掲載をしていただいているなどして、周知を図っているところでございます。

このような状況の中、市内の65歳以上の運転免許証の自主返納件数につきましては、26年は363件、30年は596件と、230件ほど増加しており、増加傾向にあるということでございます。

ご提案をいただきました運転経歴証明書の手数料を市が負担するということですが、これによって免許証の返納が促進できるのかどうかを検討しなければいけないと思っております。また、行政サービスとして、公的な資金を導入するという視点では、免許証を持っていない方とのバランスというのもございます。近隣市の先進事例等も勘案して、いただいたご意見も踏まえながら検討していきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

○湘南地区の公共交通空白地における地域での取り組みについて質問させてください。

先ほども男性Bからご質問がありましたが、中島地区、現在、公共交通空白地帯であるとともに、浜見平では高齢化率が45%を超える形になっていて、現在も、これからも、交通の移動手段に不安を抱えている方がいらっしゃると思っております。

その中で、湘南地区では今、暮らしの足を支える「おでかけワゴン」と題して、住民や

NPOが力を合わせて、新たな公共交通、新たな交通手法の検討を始めています。それに当たって、茅ヶ崎市が考えている方針ですとか方向性について、お考えを伺いたいと思っています。お願いいたします。

●都市部長

ご意見ありがとうございます。今お話しいただきましたように、公共交通については大変ご不便をおかけしており、申し訳なく感じております。これまでも路線バスの折り返し場の設定やルート変更、折り返し場がなくても運行できる方法など、様々検討はしてきたところですが、なかなか実現しなく現在に至っているところでございます。

それから、今お話しいただきました地域の皆様が主体的に、地域交通を考えて、地域の力で独立してやっていくという新しい考え方がここで示されてきているところなんです。これについても地域の皆さまには非常にお力添えをいただきまして、ありがとうございます。市もこれから側面的に、例えば、公共関係団体や、国等の協議など、しっかりと一緒に取り組みながら、お話についてサポートしていきたいと思っております。

それから、先ほど補助に関するお話もありました。これにつきましては、神奈川県にて共生社会の仕組みづくりということで、地域の皆様の外出支援をするというようなモデル事業での取り組みが、今回の議会に向けて提案されていると聞いております。まちぢから協議会やNPOの皆様での検討における内容につきましては、最終的には地域のスキームを独立させて運営するための支援ということで、県が補助をしていくというようなこともお聞きしております。市としましても、県と協力体制をしっかりと作り、また、一番重要であります皆様のお声をしっかりと聞きながら、この取り組みが具体化できるよう、これからも一緒になって取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

○湘南地区まちぢから協議会会長

今の回答に補足ですが、神奈川県では、去年から補助金の支出を検討していましたが、今年の5月に入ってその話がだめになったという経過でした。ここで、また今回、この9月にもう一度神奈川県で補助金の支出が検討されはじめたという経過があります。その話が不足していたので、申し訳ございませんが補足させてください。

○ 質問というよりは参考意見として述べさせていただきます。

公共交通問題は、長年、中島からの懸案事項として、湘南地区まちぢから協議会会長をはじめ、皆さんに本当にご尽力いただいております。心から敬意を表します。ありがとうございます。

私から参考意見といいますのは、つい最近の某新聞に掲載されていたことなんですが、同じ県内の鎌倉、逗子地区に今から約50年前に2,000世帯ぐらいある大型の分譲地が開発され、そこで5～6年前から、高齢者の買い物支援として地区の老人ホームが援助し、介護バスを出していると。健康増進のために高齢者の方が歩いて買い物に行かれる。帰りは当然荷物がありますので、荷物を持った方は大変でしょうから、ご自宅まで送るといったシステムをとられているんですね。ですから、例えば、中島からハマミーナまで歩いて、高齢者の方は30～40分かかかるかな。ちょうど健康増進にいいような距離だと思いますが、そこまで歩いて行っていただき、例えばしろやま公園で「おでかけワゴン」とか、ああいうのに乗って帰ってきていただく。逗子のハイランドの場合は、当初は週何回だっ



たものの、好評なので、毎日、1日2便ぐらい出しているということでした。そういった方法をとるのも一案かなと思います。これは質問ではなく、私の参考意見で、今後、こういうことを地域、自治会等も含めて検討していくのがいいのかなと思いました。

先ほどの、高齢者の免許証返納ということも考慮されますので、そういったことをこの地区でも考えて行ければよいかなと思います。

## 5. 第二部：一般質問

【意見交換内容】※○は地域、●は行政の発言

○2点、質問あるいは要望をまとめてありますので、簡単に申し上げます。

通学路の歩道の整備をお願いいたします。住所は柳島2丁目の7。小学校の前です。ここは今、分譲がされて、まだ人は入ってはいないんですけれども、その法の敷きが整備されております。その横に私は住んでおりますけれども、ここの法敷きを広げて、雑草あるいは木々を取っていただきますと、簡単に信号まで歩道が拡幅できるはずなんです。

現在何が問題かといいますと、急坂があり、小学生が雨の日は特に傘が詰まって赤信号で待っていて大変危険です。私が道路に面しているたった1人の住人ですので、私の車の出入りに支障がなければ、簡単に上塗りで済むと思います。ぜひ現地を見ていただいて、予算等があれば10年先でも結構ですし、気がついてひらめけば、大丈夫です。すぐにできるはずなので、皆さんの知恵を借りたいなと思います。

それから、2件目、学校給食の施設の問題です。あそこに大型の動力の換気扇が合計9台あるんです。そうしますと、騒音ではなく、家の中に入ってくる羽音というか音波音が我が家のほとんどの部屋に入り出しています。これは、モーターで風を切った音ではなく、戸袋を全部閉めて届く音で、非常にうっとうしいというのが現実です。学校に恨みつらみ、何もありません。私も柳島小学校ができる前から住んでおりますので、その辺は愛情を持って見ております。この2点を、本日明快な答えをいただかなくても、現地や学校を見ていただき、今後に向かって解決していただければなと思います。

○同じような質問がありましたので、通学路のことについて。私は中島の踏切のそばに住んでおりますが、毎日、通学路のことで心配しております。あそこはガードレールがついており、車が来ると全然通れないぐらい細くなっている。

近所の子どもさんが通るのに、いつもハラハラしています。特に茅ヶ崎は、自転車のまちと言われますけれども、自転車なんか通ったら、車が来たらほとんど通れないですね。子どもたちも車が来ると、ガードレールにへばりついて、通るのを待っているという感じです。市の方も、この間、5~6人来ていられたようで、子どもさんがかわいそうだから早くやってというふうに話はしたんですけども、早急にこれは事故が起こらないうちに何とかしていただきたい。10年も待っているわけにいきませんので、よろしく願いします。

●副市長A

場所は私もよく知っています。日枝神社のところですね。ただ、ここはJRの絡みもあったと思いますのでその辺の協議ができるかどうかも含めて担当課と検討させてもらいたいと思います。また道路を朝晩一方通行にするとか、いろんなことも考えていかないとい

けないのかなということもあると思います。その辺も含めて検討させていただきたいので、また、現地に立ち会うときはよろしくをお願いします。

○先ほど、相模川洪水のハザードマップが去年の2月に配布されたとありました。去年のこの機会にもちょっとお話しさせていただきました。今、浜見平団地の全面建て替えをしていて、拠点整備課と話し合いを重ねながら具体的に進めここまできています。

その中で私がお願いしたいのは、先ほどのハザードマップを出してもらえばすぐわかるんですが、浜見平団地、松尾、柳島、この地区は完全に孤立状態なんです。要するに、相模川の水が引いた後も、流れている川がないので、ポンプで常時上げているんですね。これは雨とか何かに対しては対応できるんですが、相模川があふれて、1メートルか3メートル、全部水没した場合には、ポンプなんていうレベルじゃない。私の計算ではポンプでかき集めた場合、2カ月ぐらいかかります。相模川が減水しても流れているところがないというところをぜひ見てほしい。

それで、私、自分なりに絵を描いて、拠点整備課とも話をしました。この資料を一部お出しさせていただきますので、ぜひ一度視察、または打ち合わせをお願いしたいと思います。我々も立ち会いますので、よろしくをお願いします。

#### ●下水道河川部長

柳島ポンプ場の関係について、お話をさせていただきます。

前提といたしまして、今、ご質問の中にもございましたけれども、水害の原因となるのは洪水もしくはゲリラ豪雨ということで、残念ながら柳島ポンプ場は洪水対策としては設けられているものではない、いわゆる降雨対策、ゲリラ豪雨ということです。相模川の水位が下がって、ポンプ場から排水できるような状態になった際に最大で排水できる量というのが、大体1分間に、小学校の25メートルプール2杯分でございます。2杯分が流せる、これは、当然、ゲリラ豪雨に対応するには十分な能力があるのですが、洪水というのは、規模が全く違います。本日も国の方が来てご説明があるという話がありました。避難についてはソフトとして市民安全部からお答えさせていただいておりますけれども、洪水が起きないような堤防づくり、つまり、ハード面も大切です。起きてしまったら、ポンプ場の能力や、雨水管の能力などでは足りない、今の技術力を超えるようなものでございます。

昨年7月に岡山で豪雨がございました。住宅街が2メートル近く、広範囲にわたって浸水している状況をテレビでもご覧になった方がいると思います。あれは、人為的に排水する能力を幾ら高めても、排水するには相当な時間がかかるということです。費用の面も含めると、安心できる堤防をつくっていただくというのが私どもにとってみれば最大の解決策かなと考えているところでございます。

○今お話をいろいろ伺っていて、追加してお話ししたいことがあるので発言させていただきます。

男性Iからもお話がありましたが、松尾から柳島、中島辺りを歩いてきますと、確かに児童・生徒が歩くのに不適切な歩道というのはいっぱいあり、その一つが植木のせり出し

だと思います。垣根、ブロック塀から外へ枝が出ちゃっているとか。私は、邪魔になるところは切って歩いています。今、柳島小学校のところのお話が出ましたけれども、あれから男性Iのお宅を右に見て上がっていくところがうんと細くなっています。個人の敷地と市の敷地と、あれは法面だからどっちの所有か分かりませんが、そこへ生えた雑木がかなりこの間も出ており、1人がやっと歩けるくらいの歩道の狭さになっていました。あそこをお通りになる方は、私がどこを申し上げているかお分かりだと思います。この間は、家庭菜園へ行った帰りに全部切りまして、法面のところへ放置してあります。関心を持ってやっていただきたいと思います。

松尾、柳島、中島と歩くと、個人のお宅からせり出しているのがいっぱいあるんですよ。それで、傘を差している日は傘が邪魔になるから、車道へ子どもがせり出すんですよ。これは個人が言うといけないかになってしまうんですよ。そこで、自治会長にやってくれといっても、地元の方ですから、顔を合わせてなかなか言えない。利害関係というか、日ごろの付き合いが薄い行政や警察、こういうところの方が中に入らないとけんかになってしまう、といった辺を念頭に置いてお願いしたい。

#### ●副市長A

お答えします。切っていいかどうかは、ここでコメントは控えますけれども、民地の植木が道路上に出て視界が悪い、通行が不便だというお話は、柳島地区だけでなく、市内でたくさんご相談を受けております。現場の職員がパトロールしながら、所有者にお願いしていることは確かでございます。

皆さんの中で気になるところがあるということであれば、市に言っただけであれば、市からお話をすることはできます。そうやって一人一人に市が声をかけていくなど、できることはやっていきたい。電話をいただければ、すぐ対応いたしますので、よろしく願いいたします。

○その辺がクリアできないから、私はあえて申し上げているんです。前に私がタレコミ的に言ったところ、そこのお宅に私の名前が知れてしまったことがあります。そんな役所の担当者がいたからあえて言っているんです。杓子定規なことを言ってもだめなんです。自分で歩いて見て、ここは危ないなと思うことは判断し、自分たちがまだ危ないなと思ったら警察にお願いする。自分の目で確かめてください。おっしゃられる杓子定規なことは百も承知で申し上げているんです。

○教育長にお願いしたい。自転車の問題ですが、我々の世代や、40～50の後輩の年代でも、自転車運転のマナーがめちゃくちゃです。歩道だか車道だか分からないで走ったり、右側通行、2人乗りもしているし、スマホもやっている。こうも乱れた原因は、若いころにしっかりと習っていないからという要素もあると思います。常々思うのですが、自転車がちゃんと乗れる社会ができるために、学校教育というのは必要じゃないかと。一肌脱いでもらわないといけない部分ではないかと思っています。

先ほどの教育長のお話だと、言ってみれば、運転しなければゴールド免許という世界ですね。何もしなければ何も起こらない。やめちゃえばリスクは起きない。私とすれば、一肌脱いで、小学校、中学校で自転車の教育はちゃんとやるんだという気概を念頭に置いて、

考えていていただきたい。逃避することは簡単です。

#### ●教育長

ご質問いただきました件ですが、各小学校、中学校では全校必ず自転車の乗り方教室をやっております。子どもたちは必ず受けると。それ以外に、日常的にも自転車の乗り方については、様々な機会を通して指導をしているところがございます。それが卒業後にどう変わっていくかというところは、地域も社会も含めて一緒に考えていかなければいけないところだと思います。今回のことにつきましても、乗らさなければいいということではないと考えております。事実上、子どもたちは常に乗っておりますし、駅までも当然のように乗っております。そこでどうルールを守り、マナーを向上させていくか、また、今回の取り組みを契機とし、地域の中でも安全な乗り方について、見守りや声かけもしていただければ、本当にうれしいなと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

○全然やっていないということではなく、部活の自転車移動の部分をその一環に入れて、逃避しないでやってほしいということです。よろしくお願ひします。

○中島も最近新しい住宅が多く建てられております。1,000平米以上の宅地造成、開発許可に対しては、付近住民の説明会を実施するよう条例改正をしていただけませんか。

#### ●都市部長

手元に具体的な資料がないので、わかる範囲でのお答えになりますが、今お話がありましたのは、開発許可、それから関連します中では、まちづくり条例という部分で、周辺の皆様方にご説明をしていくことが一定の規模で義務づけられております。例えば、共同住宅8戸以上などでは、周辺の計画地を含む周辺一回りの皆様方に計画概要を説明する義務があります。また、計画概要の看板等を、敷地に2方向だと思ひますが、立てて周知をしていくことも行っております。

最近では窓口に事業者の方がご相談に見えた際に、しっかりと計画内容をお聞きし、周辺の方々にはできるだけご迷惑がないような形で指導もしていると聞いております。

具体的にもし気になる部分があるのであれば、該当の場所や内容を教えていただけると、今後の事業者への指導にも参考になります。できればぜひ一度、ご来庁いただいたときに窓口へおいでいただくなど、お話をお聞きしたいと思ひますが、いかがでしょうか。よろしくお願ひいたします。

○小出川、千ノ川、上流のダムが幾つかあると思ひんです。ダムは河口が満水になると逆流する関係で、水があふれるような状態、状況が起きるのかなと思ひます。

そこで、ダムとの情報交換はどのような格好でできていますかという質問です。

#### ●市民安全部長

小出川には、いわゆるダムといいますか、洪水調整施設、遊水池みたいなものはないと認識してございます。整備計画の中では、一定の場所を小出地区に位置付けて整備を進めている計画があるということでございますが、ダム放流の関係につきましても、相模川になりますけれども、放流する際には、直接市へ連絡が来ます。災害とあわせて危険な状態

が起るようなことがあるような場合には、市民の皆様には防災行政用無線等を通じてお知らせをするようになってございます。

## 6. 市長のまとめ

どうもありがとうございました。様々なご意見の中で、半分以上は小学校の通学路に対する問題だったかなと思っております。子どもたちに目が行き届いている地域だからこそ、そういったご意見が出た、これは、私どももしっかりと真摯に受け止めさせていただきたいと思っております。

また、相模川の氾濫ですが、この後、国交省の方が来てご説明があると伺っておりますので、その中でしっかり意見交換していただきたいと思います。小出川の話もございましたが、管理しているのは神奈川県でございます。私が県会議員のときに、萩園地域の小出川の事業として、堆砂した砂を除去する予算をつけましたが幾ら経っても進まないのです。いつやるんだと尋ねたら、実は重機を動かすオペレーターがいないとのこと。オリンピック景気なんですか、職人が東京に取られており、それでオペレーターがいなくて動かせないというような話もございました。そうはいつでも、1回予算をつけると3,000万円ぐらいかかります。そんな予算を藤沢土木で確保しているならば、しっかりと執行していただくよう、私からもこれから働きかけをさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 7. 閉会のあいさつ（湘南地区まちぢから協議会 高山副会長）

皆様、どうも熱い意見交換をありがとうございました。皆さんがここに足を運んでいただいたのは、皆さんの気持ちを細かいところから行政に伝えたいというところだと思います。本日の意見交換の中で、こういう問題を誰に話したらいいのか分からないと相談すると、行政の方は適切な場所にその連絡をつないでくれました。ぜひこういう場だけではなく、日ごろの中でもそういう気持ちで、忘れないうちに伝えていく活動していただければ幸いです。

どうも皆さんありがとうございました。

以上